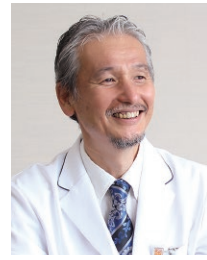




つボイノリオさん、小高直子さんと
一宮西病院のドクターによる健康対談企画
健康のつボ!

【聞き手】つボイノリオ(タレント)、小高直子(CBCアナウンサー)
【解説】たつみ一郎医師(一宮西病院)



解説
一宮西病院
整形外科部長
著書
『死ぬまで歩ける
からだの使い方
100年足腰』
(サンマーク出版)
たつみ いちろう
異 一郎 医師

ひざ関節の痛みについて

日本人の多くのご高齢の方が悩んでいる「ひざ関節」の痛み。手術だけではなく「切らずに治す保存療法」に力を入れている整形外科医・一宮西病院・整形外科部長のたつみ一郎先生にお話を伺います。

第2回
痛みは大事な信号

小高 ひざ関節痛について
第2回！お話を伺うのは一宮西病院・整形外科部長のたつみ一郎先生です。先生は

常々、「おじいちゃんとおばあちゃんが笑顔になるのが大好きなんですよ〜」って仰ってます！

つボイ 今回は、ひざが痛くなる理由をお聞きしましたよ。

小高 「ひざさえ良ければ本当に元気なのに：」「ひざが悪いから歩くのが辛い：」「歩けないからどこにも行けないし、楽しいこともなくて：」っていうご年配の方、結構まわりにも多いですよね。
たつみ そう思います。
小高 ひざが悪いだけで、本当に人生の大半はやっぱり不便？

つボイ そうやね。生活力と言うか、生命力にも影響してきますね。

たつみ そうですよ。大体皆さん、住宅ローン払い終わって、子供が成人して、50〜65歳ぐらいで「さあ自分の時間や！」という時、好きなことやれる時、そんな時にひざが痛いものだから、山にも登られへん、海にも入れられへん：となるわけです。そうなると毎日の生活も面白くないですよ。

小高 痛いのを取り除くにはどうすればいいんですか？

たつみ 多くの患者さんは「痛いからなんとかしてくれ！」と言うんですよ。そこで痛み止めを出すのが一般的です。でも、元々痛いのはなんでか？という「痛みの原因」を治さないといけません。

つボイ 痛み止めて、いわゆる対症療法ですもんね。でも痛み止め以外でどうやって痛みを取るんですか？

たつみ 患者さんごに痛みの原因は違うんですが、まずはそれを見つけて、痛みの原因を治すんです。痛みは自分の身体を守っている大事なものです。ひざの痛みっていうのは、「骨と骨が当たって割れたよ」というのを、その人に伝えてくれるんです。

小高 骨と骨が当たって割れるんですか？骨折とは違う？

たつみ 固いものと固いものが当たったら割れるでしょ？茶碗と茶碗が当たったら割れるように。それがおじいちゃん、おばあちゃんのひざの中で起こっているんです。でも茶碗も、間に布巾(ふきん)を置いてたら割れないでしょ？

つボイ その布巾にあたるのが、軟骨だということですね？

たつみ あー素晴らしい！その通り。

小高 あー！なるほど。
たつみ 軟骨がある時は、割れないんです。でも無くなったら、固いもの同士がぶつかって、割れる。割れてしまっただよ！というお知らせが「痛み」なんです。

小高 歳を取るとともに、クッションであるひざの軟骨がすり減って、大腿骨と脛骨が直接あたって痛みが出てくる。これがいわゆる「変形性ひざ関節症」の始まり、ということなんだそうです。

つボイ たつみ先生は、ひざの痛みに対して痛み止めを出すのではなく、痛みの原因を追究してそこから治してい

く、という姿勢の方ですね。

小高 たつみ先生はひざ関節の手術、つまり人工関節の手術を専門にされている方ですが、人工関節を入れるというの、痛みの原因を取り除くわかりやすい方法ですね？でもたつみ先生は、その手術の前にやるべきことがあるよ！というお考えを持っているようです。
つボイ やるべき事とは？それはどうやってやるの？詳しい方法は、また次回以降で紹介します！

小高 「健康のつボ〜ひざ関節痛について〜」一宮西病院・整形外科部長のたつみ一郎先生でした。

外来診察日(ひざ関節専門)
毎週水・木曜/9時〜12時
※休診になる場合がありますので事前にホームページなどで確認ください。

次回折込は9月22日(水)を予定しております。
ご期待ください。